

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	岩手県	事業実施主体	岩手県、陸前高田市	地域再生計画名	気仙地域の地域資源利用による震災復興に向けた地域再生計画
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	岩手県農林水産部森林保全課総括課長、陸前高田市建設部建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度	指標総数		達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	林業新規就業者数の増加	—	—	8人	H30	5人 (H29)	15人	R2	×	3	1	地方創生推進交付金事業（いわての次世代林業・木材産業育成プロジェクト事業）における林業人材の確保・育成に関する取組との相乗効果により、新規就業者数は増加傾向にあるものの、中間実績は中間目標値を3人下回ったことから、最終目標の達成に向け、交付金事業による道路網の整備と木材生産性の向上等に資するソフト事業の連携により推進していく。
	指標2	素材生産量の増加	41,000 m ³ /年	H24～H26平均	43,000 m ³ /年	H30	55,499 m ³ /年 (H29)	45,000 m ³ /年	R2	○			既に最終目標値を達成している。
	指標3	観光入込客数の増加	400,000 人/年	H26	600,000 人/年	H30	528,510 人/年 (H29)	1,000,000 人/年	R2	×			中間目標値を71,490人下回っているが、今後は市道を整備することにより観光施設へのアクセス向上が見込まれるほか、復興道路として整備している三陸沿岸道路の全線開通（仙台市～八戸市）や、高田松原海水浴場や高田松原津波復興祈念公園のオープンなどとの相乗効果により観光客の増加が見込まれる。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1												
指標2													
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (R1)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う事業	林道整備事業（整備延長）		9.0km	4.8km	9.0km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は約53%と、東日本大震災津波関係の復旧工事において入札不調が発生した影響等により、事業の進捗に遅れが生じているが、地域再生計画に掲載している4路線のうち1路線が令和元年度に完成する予定であることから、残りの3路線へ適切に予算を配分しながら、計画的に整備を進めていく。							
	市道整備事業（整備延長）		1.2km	0.5km	1.2km	当初予定していた路面排水の計画を見直したため、流末を変更する必要が生じたことから、測量設計調査に遅れが生じており、路線延長から見る進捗率は、当初計画に対して約42%となっている。これにより、全体事業費が増額となる見込みであるが、事業は予定どおり令和2年度に完了する見込みである。							
その他の事業	いわての次世代林業・木材産業育成プロジェクト事業	林業に関する知識・技術を体系的に習得する長期研修の施設整備や運営、木材の販路拡大に向けた技術力向上研修などの実施					地方創生推進交付金の活用により、平成29年度に林業人材を育成する「林業アカデミー」を開講したことにより、県内の新規就業者は近年増加傾向にあり、平成29年度までに修了した33名全員が林業事業体等に就職している（うち陸前高田市への林業新規就業者は1人）。						
	高田地区海岸災害復旧事業	防潮堤の再整備（L=1,872m） 防潮林の再生（A=12ha）					東日本大震災津波により市街地が壊滅的な被害を受けたため、県が防潮堤等を整備しており、水門（2020年3月頃完成予定）以外は完成済みである。また、白砂と松が美しい景勝地として知られていた「高田松原」の松林（防潮林）の復旧を図るために県が実施している植栽工等が令和元年度に完了する予定であり、植栽後の保育作業のため多くのボランティアが訪れることが見込まれる。						
	林業体験事業	「立教の森」の整備を通じて、大学生や地域住民との協働による森林整備を実施					陸前高田生生出地区に、都市農村交流拠点として「立教の森」を整備し、立教大学の学生や地域住民との協働による森林整備を行っている。（学生の参加者数 H28…7名 H29…中止（台風のため） H30…5名）						
	木材利用促進イベントの開催	「気仙すぎ祭」の開催					市民等に木材に関するPRを行うことにより、木材の利用促進を図るとともに、森林資源の魅力を発信するため、昭和63年からイベントを継続して開催している。						
	観光イベントの開催	「ツール・ド・三陸」の開催					観光振興等を図るため、市内の道路（国道道、市道、林道）を活用した一般市民参加型のサイクリングイベントとして、平成24年から開催しており、将来的には交付金事業により整備した林道の活用を検討していく。						
	定住の促進（中心市街地整備事業）	被災した市街地の復興となりわいの再生					東日本大震災津波により被災した中心市街地の復興を図るため、地域材を使用した市立図書館等を整備するとともに、まちなか広場周辺で開催される産業まつり等を通じて補助制度をPRすること等により、地域材を使用した住宅等の新築・増改築を促進していく。						
	定住の促進（持続可能な共生林業の推進）	移住者の受け入れや定住の促進					林業従事者の高齢化による減少を抑制するため、林業をなりわいとする都市部等からの移住者を地域おこし協力隊として受け入れるとともに、市が林業研修等を開催することなどにより、移住者の定住促進を図っている。（地域おこし協力隊の受入数 H28…1名 H29…4名 H30…7名）						
計画外で独自に実施した事業													
④評価方法	学識経験者2名から意見を聴取した上で評価・検討等を行った。												
⑤中間評価の公表方法	岩手県及び陸前高田市のホームページに掲載												
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、市道と林道を一体的に整備し、主要幹線となる国道・三陸沿岸道路や、その支線となる市道・林道を含む道路ネットワークの整備により、物流・生産コストの縮減や森林資源の積極的な利用を図り、林業における雇用の創出や地域住民の居住環境の改善、所得の向上、地域の活性化・再生を目指すこととしている。指標1の林業新規就業者数及び指標3の観光入込客数については、中間目標値には到達していないが、今後は地域再生計画の最終目標の達成に向けて、道路網の早期整備を進めることで木材生産性の向上やアクセス改善が図られることから、引き続き事業を推進していく。												
⑦今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）					市道市民の森線について、路面排水計画を変更して流末箇所を見直したことに伴い、全体事業費が増となるものである。							
	令和2年度予算要望額への反映（有・無）					上記理由に伴い、令和2年度の要望額が増となるものである。							
	有りの場合の増減額 25,000千円												
⑧今後の方針等に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ●路面排水計画の変更に伴う事業費の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の事業費 <ul style="list-style-type: none"> 認定時20,000千円→見直し後50,000千円 [30,000千円（うち交付金15,000千円）増] ・総事業費 <ul style="list-style-type: none"> 認定時100,000千円→見直し後150,000千円 [50,000千円増（うち交付金25,000千円）増] 												